

書体は、MS明朝で統一のこと。

年月日の表記は、年号・西暦のいずれかに統一のこと。

様式第4号 (記入例)

教員の個人調書

(その1)

履 歴 書			
フリガナ氏名	(氏名・フリガナの記入)	男・女	生年月日 (年齢) 昭和〇〇年〇〇月〇〇日生 (満〇〇歳) <u>(採用時、昇任時における満年齢を記入)</u>
本籍地又は国籍	〇〇県 (都道府県名のみ記入のこと) <u>(外国籍の方は国籍を記入のこと)</u>	現住所	(現住所を記入)
学 歴			
年 月	事 項		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 卒業 (大学・高等専門学校の卒業から記入)		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻修士課程 修了 (専攻名まで記入)		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻博士課程 単位取得満期退学		
昭和〇〇年〇月	〇〇学博士の学位取得 (〇〇大学・〇〇博第〇〇号) <u>(学位・称号を記入)</u>		
職 歴			
年 月	事 項		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学〇〇学部助手 (昭和〇〇年〇月まで) <u>(主な担当科目を記入)</u>		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学〇〇学部講師 (〇〇学担当) (昭和〇〇年〇月まで)		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学〇〇学部助教授 (〇〇学担当) (昭和〇〇年〇月まで)		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学〇〇学部教授 (〇〇学担当) (現在に至る) <u>(現職の場合は(現在に至る)と記入のこと)</u>		
昭和〇〇年〇月	(文部省) 〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻担当 (M [Ⓞ] 〇〇学特論担当) (現在に至る)		
昭和〇〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻担当 (D [Ⓞ] 〇〇学特殊研究担当) (現在に至る)		
平成〇〇年〇月	〇〇大学評議員 (平成〇〇年〇月まで)		
平成〇〇年〇月	〇〇大学〇〇学部長 (平成〇〇年〇月まで)		
平成〇〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇学研究科長 (平成〇〇年〇月まで)		
平成 年 月	<u>() 内に「退任の年月」または「現在に至る」のいずれかを記入のこと</u>		
学会および社会における活動等			
年 月	事 項		
昭和〇〇年〇月	〇〇〇〇学会会員 (現在に至る)		
昭和〇〇年〇月	〇〇〇〇学会評議員 (昭和〇〇年〇月まで)		
平成〇〇年〇月	〇〇〇〇学会幹事 (平成〇〇年〇月まで)		
平成〇〇年〇月	〇〇〇〇学会理事 (平成〇〇年〇月まで)		
平成〇〇年〇月	〇〇〇〇学会評議員 (現在に至る)		
平成 年 月	<u>() 内に「退任の年月」または「現在に至る」のいずれかを記入のこと</u>		

(文部省・文部科学省の審査による資格の場合は、文頭に(文部省)・(文部科学省)と記入のこと)

(学内審査による資格の場合は、そのまま記入のこと)

(別科・専攻科の記入は、学歴欄に記入のこと) (研究生・副手・聴講生等は職歴欄に記入のこと)

賞 罰								
年 月	事 項							
平成〇〇年〇月	〇〇学会〇〇論文賞							
	特になし (特にない場合は「特になし」と記入)							
職 務 の 状 況								
勤 務 先	職 名	学部, 学科等 (所属部局) の名称	担当授業科目名	毎週担当授業時間数				備 考
				専任	兼担	兼任	計	
〇〇大学 ↑	教授	大学院〇〇学研究科 〇〇学専攻	〇〇学特論 I 〇〇学特別演習 〇〇学特別実験	2 4 6			1 2	
		〇〇学部〇〇〇学科	〇〇学 I 〇〇学 II 卒業研究 〇〇学論	2 (前) 2 (後) 4.5 2 (後)			(前) 4 (後)	
		〇〇学部〇〇〇学科	〇〇学		2 (前)		4	
△△大学	非常勤講師	△学部△△△学科	△△△学			4	8.5	
上記のとおり相違ありません。								
平成〇〇年〇〇月〇〇日								
氏 名 (記名・押印)							印	

申請時現在で担当している授業科目等を記入のこと (企業内教育は記入しないこと)

(本務校の所属専攻・所属学科の担当科目の状況を記入)

(本務校の他学部・他学科の担当状況を記入)

(非常勤講師としての担当状況を記入)

(学部・学科・担当授業科目名等をそれぞれの欄に記入のこと)

記名 (ワープロ可) のうえ、押印

＜参 考＞教育上の能力に関する事項及び職務上の実績に関する事項の記入例
 (その2) - 1

教 育 研 究 業 績 書

平成 年 月 日

記名 (ワープロ可) のうえ押印 → 氏 名 ○ ○ ○ ○ 印

教育上の能力に関する事項	年月日	概 要
<p>1. 教育方法の実践例</p> <p>授業を行なうにあたって学生の理解を促し、教育効果を高める教育方法として工夫した事項について、項目として起こす。</p> <p><u>代表的な事項例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた教育方法の実践例 ・マルチメディア機器を活用した授業方法 ・学生の授業外における学習促進のための取り組み ・講義内容のweb上での公開 ・課題・レポートの活用 (効果的な題材, 評価方法等, 工夫点について) ・演習・実習の効果的な活用 ・教育におけるe-mail利用 ・遠隔技術の利用 ・視聴覚教育技術の利用 ・市販教材の活用の工夫。 ・体験型学習の導入 ・双方向授業の実践 ・ディベート, ディスカッションの導入 ・プレゼンテーションの導入 ・シラバスの活用 ・TAの活用 	<p>平成○年○月 ～ 平成○年○月</p> <p>(過去から現在の順に記入。年号・西暦いずれかに統一。)</p>	<p>①当該教育方法を実践した科目を併記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○大学○○学部○○学科の教授として担当の「○○○○論」(専門科目, ○年次配当, 半期, 必修○単位)において実践した。 <p>②実践例の具体的内容を、当該教育方法を実践したことの効果も含めて、200字程度で記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の達成度(合格率)の向上 ・当該科目(例えば「○○論II」)の前提となる科目(「○○論I」)において成績が下位だった者の相当数の成績が向上した。 ・当該科目の履修者の相当数において、○○資格試験の成績が、当該科目の履修の前後を比較すると、飛躍的に向上した。 ・教員と受講者全員のメーリングリストを開設・登録し、これを用いて情報提供、質問、回答や指導を行なった結果、以下の改善が行われた。 <ol style="list-style-type: none"> (1)学習者が課外の学習を行なう際に出た疑問点やトラブルに対し、次の授業まで待たずに質問し、相談し、解決することができた。 (2)初心者共通のトラブルとその解決の共有によって、他の受講者は同じトラブルを経験しないで済んだ。 (3)学内のインフォーマルな閉じた電子社会で、技術的な点だけでなく、電子社会のマナーやエチケットを身に付けることができた。 ・毎時限の最後に、レポート課題を含んだ次回講義内容の解説資料を渡し、次回講義の2日前までに「予習レポート」を提出させた。レポートは正誤ではなく問題への取り組みの真摯さの観点から3段階で評価し、講義の冒頭で返却した。これにより学生は目的を持って授業に参加でき、教員は学生の理解度に配慮した授業設計ができた。レポートを課すグループと課さないグループの試行結果から、「予習レポート」は教育目標の達成度向上に効果があることが分った。

教育上の能力に関する事項	年月日	概要
<p>2. 作成した教科書・教材</p> <p>出版された教科書だけでなく、授業を行なうにあたって学生の理解を促し、教育効果を高めるために工夫した教材について、項目として起こす。</p> <p><u>代表的な事項例</u></p> <p>教科書 (後の「著書」との重複も可。その場合は(再掲)と表示。)</p> <p>○ 特色ある講義用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特色ある補助教材 (プリント冊子) ・ 実験・実習指導用マニュアル ・ スライド・OHP・ビデオ等の教材作成 ・ 模型等の教材作成 ・ その他 	<p>平成○年○月</p> <p>(過去から現在の順に記入。年号・西暦いずれかに統一。)</p>	<p>①当該教育方法を実践した科目を併記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○大学○○学部○○学科の教授として担当の「○○○○論」(専門科目, ○年次配当, 半期, 必修○単位, 平成○年○月~平成○年○月担当)において実践した。 <p>②教材の使用目的, 具体的内容を200字程度で記入する。</p> <p>「教育上の能力」として十分評価すべき貢献度が認められ、学術研究に関する業績数に換算可能な項目には、該当する項目番号の欄外の部分に○を付すこと。</p> <p>欄外に○が付された項目について、貢献度が特に高いと認められる具体的事項に○を付しこと(○は枠内に付すこと)。</p>
<p>3. 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>自己点検・評価, FD等で第三者から評価された特筆されるような内容について、項目として起こす。</p> <p><u>代表的な事項例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業評価アンケート調査結果 ・ 教員同士の教育に関する相互評価 (授業相互参観など) ・ 大学が実施したFD関係の調査結果 ・ 上記以外で, 学長, 学部長, 教員, 諸機関等が行なった評価 	<p>平成○年○月</p> <p>平成○年○月</p> <p>平成○年○月</p> <p>平成○年○月</p> <p>(過去から現在の順に記入。年号・西暦いずれかに統一。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学等 (学長, 学部長, 教授会, 各種委員会等) から評価された事由と内容について記入する。

教育上の能力に関する事項	年月日	概 要
<p>4. 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学から受け入れた実習生等に対する指導 ・ 職能団体の依頼による研修指導等 ・ 企業内教育、大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等 	<p>平成○年○月 ～ 平成○年○月</p> <p>平成○年○月 ～ 平成○年○月</p> <p>平成○年○月</p> <p>平成○年○月</p> <p>(過去から現在の順に記入。年号・西暦いずれかに統一。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導内容、指導人数、指導期間等について記入する。 ・ ○○財団主催による『○○研修会』の講師を努めた。担当科目名は『○○○』で、チーム作業の円滑な実践展開のための人間関係づくりを、○○○○技法を中心に体験学習方式の宿泊形態にて教授指導した。 ・ ○○大学大学院○○研究科において、「○○○○○」に関する特別講演を行った。(主催者、講座名、開催日、場所、対象者とその内容について記入) ・ ○○研究所の専門家の若手研究員研修会において、「○○」に関する講義を行った。(主催者、講座名、開催日、場所、対象者とその内容について記入)
<p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学教育改善に関する団体等での活動の概要 ・ 教育実績に対する受賞歴 等 <p><u>代表的な事項例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムの改善 ・ 実験・実習内容の改善 ・ 教育方法の研究 ・ 教育実績に関する受賞歴 ・ その他 	<p>平成○年○月 ～ 平成○年○月</p> <p>平成○年○月</p> <p>平成○年○月</p> <p>(過去から現在の順に記入。年号・西暦いずれかに統一。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の具体的内容を記入する。

<参考>職務上の実績に関する事項の記入例

(その2) - 5

記名 (ワープロ可)

(氏名 ○ ○ ○ ○)

職務上の実績に関する事項	年月日	概 要
<p>「職務上の実績」に係り以下の関連する項目があれば記載してください。</p> <p>○<u>大学教員の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の各項目に該当する実績があればその概要を記載して下さい。 <p>○<u>企業、官公庁の研究者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要 ・取得した特許等の概要 ・取得した資格、免許等の概要 ・大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割 <p>○<u>その他、企業・団体等関係者</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績 <p>○<u>情報技術者関係の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法、ソフト・システム開発歴） <p>○<u>マスコミ関係者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・執筆した記事の概要 ・作成した番組の概要 <p>○<u>法曹関係者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係した訴訟等での活動や判決の概要 <p>○<u>医師や看護師等医療技術者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例研究会での発表等の活動 	<p>(過去から現在の順に記載。年号・西暦いずれかに統一。)</p>	<p>(記載した内容について、概要をそれぞれにつき、200字以内で記載のこと)</p>

職務上の実績に関する事項	年月日	概要
<p><u>○福祉その他社会的活動の関係者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位 <p><u>○スポーツ等実技関係者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者としての経歴・実績・資格 <p><u>○芸術関係者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の概要 <p><u>○博物館・美術館等関係者の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当した展覧会の概要 ・執筆・監修した展覧会図録の概要 <p><u>○その他全般を通じて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争的外部資金の獲得など 	<p>(過去から現在の順に記載。年号・西暦いずれかに統一。)</p>	<p>(記載した内容について、概要をそれぞれにつき、200字以内で記載のこと。)</p>

*著書・学術論文・その他の順に区分し、それぞれ年月日順（過去→現在）にて記入のこと。
*学位論文、口頭発表は、記入しないこと。

(担当部分を抽出困難な時は「抽出不可能」と記入)

「教育研究業績書」から通し番号

(その2) - 7

記名 (ワープロ可)

(氏名 ○ ○ ○ ○)

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
著書(1) ○○○○学講義	共著	昭和○年○月	○○出版社	担当部分は、第1章○○○, …… ……について概説した。 共著者: ○○○○、本人名 (pp. 10-50: 本人担当分の明記)
学術論文(1) ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	共著	昭和○年○月	○○○学会誌 第○巻, 第○号50	……について論述した。 共著者: ○○○○、本人名 (pp. 20-50)
学術論文(2) ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	単著	昭和○年○月	○○○学会誌 第○巻, 第○号	……について論述した。 (pp. 20-50)
学術論文(3)		昭和 年 月		……について報告した (pp. 20-50)
その他(1) ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	単著	昭和○年○月	○○大学研究報告 第○号	……について報告した (pp. 20-50)

発表学会誌の名称・巻・号を記入のこと。(略さず正式名称を記入、名称・巻・号は、全て統一のこと)

小文字

単著・共著の区別

年代の古い順(過去→現在)記載。年号・西暦いずれかに統一。

その他は、活字として発表されたもので、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入のこと。

概要は200字程度で記入のこと。
共著は担当部分・掲載頁を明記のこと。
共著者が多数の場合、本人を含めた代表的な人を最低10名程度は記載し、残りは「ほか～名」と記入のこと。

発表予定のものについては、その旨を明記し、証明書を添付のこと。。投稿予定のものは、含めないこと。

共著のうち、申請者自身が主たる役割の業績は、欄外に○を付すこと。

< 2 ページ以降の記入例 >

(その2) - 8

(通しのページ番号を記入)

(氏名 ○ ○ ○ ○)

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
その他(2)		昭和 年 月		記名 (ワープロ可)
その他(3)		昭和 年 月		